

Title	都市と交通
Sub Title	
Author	増井, 幸雄
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.2 (1914. 3) ,p.234(108)- 245(119)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140300-0108">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140300-0108</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 都市と交通

増井幸雄

## 一 都市の意義

都市とは田舎に對するの語にして、後者が少數人口の散在住居せる地方を指すに反し、前者は多數人口の密集群居せる地方を指す、換言すれば、ハッセルト氏の云へるが如く多數の永續的密集状態を指すものに外ならざるなり。(都市論五—六) 法制上又は統計上に於ては人口の一定數を以て都鄙を分つる標準となし居れるもこれ畢竟獨斷なり、現に幾許の人口數を以て此の標準となすやに就ては國によりて大に異なるものあるにあらずや(經濟上より見れば人口が九千人なるも、一萬人なるも、苟もそが密集群居し居る限りは、其性質に於て毫も軒輊する所あるなし。唯多數の人口といふのみを以て足る幾許以上といふる如く一定の限度を劃すること能はざるなり。或は面積の大小區域の廣狹を以

雜錄

て標準となさむとするか。是れ亦採用すべからず、蓋し建築物大なる場合には人口少くとも區域は膨大すべく、其の小なる場合には人口多くと同區域は狭少なるべければなり。或は又「市」「町」なる名稱を有するものを以て都市となし、「村」なる名稱を有するものを以て田舎となさむとするか、是れも採用す可らず、蓋し一方に於ては獨逸「バーデン」なるハーフエンスタインの如き或は「ウエルテンベルヒ」なるツアーフェルスタインの如き、町名を冠しながら人口それぞれ二百及び三百に満たずして事實上村落と何等選ぶ所なきものあると共に、他方に於てはハンボルヒ及びリヒテンベルヒの如き、名は即ち村といふと雖も人口それぞれ五萬以上に達して事實上都市と毫も異なる所なきものさへ存すればなり若しそれ全く或は主として商工業の行はると農林業の行はるゝとの如何を以て都鄙を分つる標準となさむとするものあらむか、そは正しく本末を顛倒したるものといはざるべからず

何となれば、かゝる生産業の相違は都鄙の區別を來すの原因にはあらずして、後にも述ぶるが如く、都鄙の區別こそ却て生産業の相違を來すの主要原因なればなり。

## 二 都市の發生

都市の發生は之を二つに分つことを得、自然的の發生及び人為的の發生即ち是なり。

(一) 人為的なる都市の發生とは、都市の發生發達が自然的に行はるゝにあらずして、或る人為的手段を以て之を發生せしめ又は發達せしむること、例へば不毛の地に帝都を造營し又は寒村に大官廳を設くるが爲に茲に都市の發生を見るが如きを云ふ。即ち帝都を奈良に相し、平安京に移して以て都市の成立を來したるが如き又例を外國に求めれば境伯カール・ウヰルヘルムがハルトワルドの中央に狩獵場を設け道路を劃し街衢を整へ諸官廳をばドウルラツハより移して以て今日のカールスルーエの基を開きたるが如き、或は「ウエルテンベルヒ」のルードウイ

雜錄

ツヒスブルヒがエーバーハルト・ルードウイツヒ大公の狩獵場開設に始まるが如き、或は又フリードリツヒ・ウヰルヘルム一世が一寒村を變じて都市となせるによりて生じたるグムピンネンの如き米國の首府ワシントンの如きは即ち是なり。是等の都市の成立は多くは政治的又は軍事的動機に出でたるものにして、往時の都市には此の種の原因より生じたるもの頗る多し。然りと雖もこは長き期間に偶々發生し得べき所に於て年々又は各時代に起り得べきものにあらず、而して近代に於ては此の原因は餘り重要なるものにはあらざるなり。

(二) 次に自然的なる都市の發生とは何等人為的手段に基くにあらず、事の自然の成行の結果として都市が成立し村落より發達して都市となるを云ふ。換言すれば人が人を引き寄せたるにあらざして、人が自ら集り來りて都市を形成するに至るを云ふなり。近代の都市は多くは斯る原因よりして生じたるものに屬す。然らば

如何なる動機によりて人が斯く集り來りしやといふに、或はメツカの如く宗教的動機に出でたこともありと雖もこれ頗る稀なる場合のみ、加ふるに近世に於ては殆んど之を見ること能はず。コッタ (Cotta) 氏等は土俗的原因の輕視すべからざるを論じたれども、そは近世に於ては左程重要なものにはあらず。近世に於て最も重要なものは實に經濟的原因なりとす。都市の自然的發生の原因中にありて最も重要な部分を占むる經濟的原因とは果して何ぞや。曰く其の所に於て生活資料を獲得するの機會あること即ち是なり。

凡そ人の所在從て住所の所在は、地上に轉輾せる木片石塊が他方の働きたる結果として其所在を定むると大に趣を異にし、自ら止まらむと欲して止まり、自ら去らむと欲して、去るものにして散在住居して村落を形づくるも集合住居して都市を成すも、皆是れ人間の自力に出づ。抑々人の生活の第一義は生活それ自身を維持す

るにあり、自存の衝動は最も早く起りて最も遅くまで存續し且つ存續期間中最も強く作用するものにして、人は先づ第一に生活の資料を求む故に生活資料の得らるべき所には人止まるべきも、その得られざるに至らば即ち之を棄て、去る往時遊牧の民が水草を追うて東西に流浪したるが如きは最も顯著なる一例なるが、人が生活資料の後を追うて移ること今日と雖も昔日と異なる所あるを見ず、唯一にはそが多く同一地方に於て彼此事業間に行はれ、今一つには人が直接に生活資料そのものを求めずして生活資料を得るの手段たる貨幣を多額に得むとして利潤の大を追求し居るが爲に一見明にそれと知るを得ざるのみ。

生活資料を得るの途は之を三段に分つことを得。その第一段を大古草昧の時代に於ける占有となす。人少く自然豊かなりし時代にありては山野至る所に生活資料を發見し得べく、又欲望も頗る單純なるが故に僅少單純なる財を以て滿

足するを得たりしなり。然るに人口増加し欲望發達するにつれて、占有せる財のみを以てしては満足すること能はざるに至り、茲に多少の犠牲を拂つて生産なる手段に訴ふるに至る。之を第二段となす。而して人口益々増加し殊に欲望の種類の分化を來しその品質の向上を見るや、獨力を以てしては此等の欲望の凡てを悉く又は充分に満足せしむること能はざるに至つて茲に交換起り分業生じ、交易經濟の發達を來すに及んで自ら生活資料を生産することをならず専ら財の授受によりて價值の増加發達を來し之を以て交換の資料他に生活資料獲得の手段とする者を生ずるに至る、之を第三段となし名けて營利といふ。以上三段の生活資料獲得方法の中に占有は現今殆んど全く行はれず、行はるゝものは營利と生産との兩者のみ。

生産は價值の發生又は増加を人と物との關係に求むるものなるが故に之を行ふに當ては先づ物を獲得する事を必要とす、茲に物とは所謂生

産資料の義に外ならず、從て生産は生産資料の獲得し得らるゝ所に於て行はれ、生産者は斯る地點に集まる。之に反して營利は價值の増加又は發生を人と人との關係に求むるものなるが故に之を行ふには先づ人と人との交渉あることを必要とす、從て營利は人と人との接觸交渉ある所に於て行はれ、營利を行ふ者は斯る地點に集まる。然るに生産資料分有の結果として自ら生産又は營利を行ふこと能はざるか或は行ふことを欲せざる者は生産營利の資料の一部を提供して之に對する報酬を得て以て生活資料とするの外なきものなるが、資本及び土地を以て之に參加する者は其の提出する資料を自己の身體より分離せしむることを得るが故に必ずしも自ら事業の行はるゝの地點に赴かざれども勞働を以て參加する者は其の提出に係る資料を自己の身體より分離せしむること能はざるが故に躬ら勞働の需要ある所即ち生産即ち生産又は營利の行はるゝの地點に集まるものなり。

斯の如く生産又は營利を行ふか或は之が一部に參加して以て生活資料を獲得し得るの機會ある地點には人を引き付ける力あり、人は此の力に引き寄せられて集まり來り漸次其の數を増加して遂に都市を形成するに至るものにして、近來の都市の多くは斯る經過によりて成立したるなり。然らば斯る生産又は營利を行ふの機會は如何なる地方如何なる地點に存するや吾人は左に之を見むと欲す。

三 都市の位置

「先づ商業の中心たる商業的都市に就て云はむ營利の機會を提供して營利業者を呼び遂に商業的都市の發生發達を見るの地點は何處に在りやといふに、それは交通線路上にあり、就中交通の一時的中斷休止を來さしむるの地點に在り。グーレー氏曰く、人と富とは交通の中斷ある所に集まるの傾向ありと、蓋し斯る地點には人と人との接觸交渉あり以て營利の機會を供すべければなり。交通の中斷とは何ぞや。氏は之を以

て「少くとも貨物の積換及び一時の蓄積を來さしむるに足る程の移動の障礙なり」と解したれども、予は少しく廣義に解し、貨物の外に人も包含せしめむと欲す、何となれば貨物が運送の目的物たり得ると同じく人も亦運送の目的物たり得べく、且つ大體に於て貨物の移動の一時的中止は同時に人の移動の一時の休止をも伴ふものなればなり。

交通の中斷に二種あり、一は通路又は運送具等専ら移動の有形的技術的原因より來れる障礙ある場合にして之を機械的中斷といひ、他は技術的障礙ある外に所有權の移轉を伴ふ場合にして之を商業的中斷といふ。(一)機械的中斷ある場合には、一方に於ては貨物の積込積卸のために労働を要すべく、一時の蓄積のために倉庫を要すべく、倉庫並に貨物の監理者をも要すべく、或は又運送具の一時の保管の設備をも要すべくと共に、他方に於ては貨物運送の任に當れる人々又は單獨の旅客の休泊のために旅館休息

所等をも必要とすべく、其の結果として是等の必要に應ずべき職人、農業者、又は店舖監理人等をも必要とするに至るを以て、斯る箇所には多大の營利及び労働の機會存すべし(二)次に商業的中斷は機械的中斷の存す所又は其の附近には殆んど常に存在するものにして、其の然る場合には後者は頗る重要なものとなり、而してそれが重要な交通線路上にある場合には營利及び労働の機會は益々増加すべし。蓋し斯る地點には前に述べたる積換又は保管の設備の外に猶取引の關係者例へば商人・兩換業者・通信業者等の發生を必要とすべく、又斯る營利業者の必要に應ずるために更に建築業者・食料品供給者等を必要とするに至るべきを以てなり。故に機械的商業的の何れたるを問はず、苟も交通上中斷の存する以上は、其處に營利及び労働の機會存すべく、生活資料獲得の機會存すべきを以て、現在他所に於て何等の生活資料をも獲得し得ざる者又は他所よりも此處に於て一層有利に此の

目的を達し得べしと考ふる者は自然此の地點に集まるべく、斯くして遂には商業的都市の形成を見るに至るべし。

「扱て斯の如き中斷は如何なる原因より來りて如何なる地點にありや。曰く(一)或は避くべからざる有形的自然的の障害より來ることあり。例へば港灣又は地峽の如き水運と陸運との接續點河口港の如き一種の水運との接續點、又は山地と平野との境界地方の如き一種の陸運と他種の陸運との接續點、或は二箇又は數箇の谷の分れ口、河川の合流點、重要道路の交叉點、又は分岐點河川と陸路との交叉點、渡渉地點等は即ち是なり。(二)或は交通の技術より來ることあり即ち運輸系統又は運送具等の關係よりして一種の運送具より他種の運送具へ、又は同一種類の運送具の一より他への積換・乗換を要する地點、例へば深吃水船より淺吃水船へ、一鐵道より他の鐵道へ、鐵道より電車・馬車・人車等へ、又は是等相互間の積換乗換地點等は即ち是なり。(三)

或は此の中斷は政治的原因に出づることあり。一國と他國との境界線は即ち是にして、國境を隔て、相對立せる西比利亞のキヤクタンと蒙古の賣買域との如きは此の例なり。(四)最後に人の旅行に際しての一日行程の關係より來ることあり。徒歩旅行の時代又山地方に於ては重要な地點より交通線路上一日行程約十里又は半日行程約五里を隔てたる地點の如き即ち是なり。

以上四種類の中において第三の原因は今や實際交通關係の改善せられたるがために、又第四の原因は交通機關殊に鐵道の發達は晝夜繼續の迅速旅行を可能ならしめ従て一日行程の延長を來したるがために、それ／＼其の重要な度を減じ此の原因より來れる中斷の存する箇所を減ずるに至れりと雖も、第一第二の兩原因に至つては今猶其の力を減殺せらるゝに至らざるなり。何れにしても是等の原因より來れる中斷地點には營利の機會あり、勞働の機會あり、以て人口を吸収すべく、遂に商業的都市の成立發達を見

るべきなり。

\*

\*

\*

\*

斯の如くにして發生したる都市は終に商業的都市たるに終るべきやといふに、決して然らず都市形成の第一歩より徐々に小工業者の發生を招き、人口の増加、都市の發達につれて大工業の發生をも來し、商業的都市は茲に工業的色彩を帯び來りて遂に商業的都市となるものなり。

生産は營利と異りて人と人との交渉接觸あるのみを以て足れりとせず、種々の資料を必要とするを以て、生産資料の獲得し得らるゝ所にあらざるば之を行ふこと能はざるなり。而して自己消費の時代において生産の目的は自己消費に存するが故に、生産をなすに當ては財の處分の便否を考ふるの必要なく、専ら生産の便否のみを考へ、生産資料の最も有利に獲得し得らるるの地點に其の位置を定むるを得るに反し、交易經濟時代に於ては生産の目的は販賣に存するが故に、生産業は生産販賣の二點に就て最も有

利なる條件を提供するの地點に其の位置を定むるを要す。然るに農林業礦山業の如き原始的生産業にありては其の最も重要な要素を成せる土地は不可動的なるを以て其の位置は自然に拘束せらるゝと雖も加工的生産業たる工業にありては主要要素は可動的なるを以て自然に拘束せらるゝことなく、自由に如上の目的に叶ふの地點に其の位置を定むることを得るなり。然らば即ち都市に工業が發生するは都市に於て生産販賣の條件が有利に獲得し得らるゝの結果たらざるべからず、果して然るや以下之を検せむ。

(一)土地は工業にありては單に敷地として即ち生産及び販賣の地盤として用あるのみ、從て土地の特質中利用せらるゝものは豊度にあらざるして位置なり。然るに位置は生産の技術の方面より見て特定の性質を具備せる地方たることを必要とする場合(例へば紡績業の濕氣多き地を貴ぶが如き場合)なきにあらずと雖も、斯の如きは僅少なる場合に過ぎずして多くは位置の如何

は何等生産の技術的障礙を來すものにあらざるが故に、生産業は専ら販賣の便宜に從て其の位置を定むることを得べし。此の點より見れば都市は人口多く消費者集中せるを以て特に田舎向の貨物生産に従事する者の外は都會に位置を定むるを便なりとす、遠距離輸送に堪へざる貨物生産の場合に殊に然り。然りと雖も販賣に便宜なる地點は借地料高く生産費の増加を來すの不利あり。されば都市の場末又は郊外地方は蓋し最も有利なる位置ならむか。

(二)勞働の供給は國內何れの地方にも存せざることなしと雖も、山岳地方よりも平野地方に於て田舎よりも都會に於て其の供給は一層豊富なるべし。唯問題となるは勞銀の關係なるがては勞働の種類によりて、同じからず、都會に於ては熟練勞働は勞働組合の組織によりて勞銀高きを免れざれども、不熟練勞働は假令勞働効率は多少なかるべきも生活に迫はるゝが爲に、勞銀は却て低きを得べし。故に多數の不熟練勞働

を使用する工業にありては田舎よりも都市を以て利ありとなす。

(三)原料品の中にて材木、鑽石等の如く容積重量大にして價值の小なるものは運賃嵩み費用の増加を來すが故に、之を使用する工業は成るべく該原料品の生産地又は輸入港の附近を以て利ありとせむも、棉花、金屬等の如く容積重量の割合に價值の大なるものは運賃小なるが故に其の生産地より遠距離の地點にも送るを得べく、既に生産地より遠方に送るとせば都市は交通線路上に位せるを以て交通線路外に位せる田舎よりも運賃小額なるを得べし。

(四)金融の便に就ては、資金は田舎よりも都會に於て其の供給多きが故に、都會に於ては多額の資金を低利に且つ容易に利用することを得べく、原料品の購買、生産物の販賣に關聯して金融諸機關を利用するの便も大なりとす。尤も銀行制度殊に支店制度の發達は或る程度までは田舎をして此種の便宜を得せしむべしと雖も、

後者は到底前者の敵にあらざるなり。

上述の諸點を通覽するに、一方に於ては都市を以て利ありとするの事情あると共に、他方には田舎を以て利ありとするの事情の存するを見る。茲に於てか生産者は其の種類を異にし従て右の諸點の中何れの利益を最も重視するや、何れの費用を以て最も重き負擔と感ずるやによつて必ずしも其の位置を同じうせず、勞働及び土地の費用よりも金融販賣の便を重んずる者は都市の中央に來るべく、原料品の運賃を最も重き負擔と感ずる者は其他の利益に關せずして原料品生産地に赴くべきが如くなりと雖も、大體に於て之を見るときは、勞働及び金融の便の二點に就ては何れの生産者も多く異なる所なく、其の異なるの最も甚しきは購買販賣に附帶する運賃の點に就てなるが故に、大體に於て少量高價の材料を使用する工業にありては都市又は其の近郊を以て利ありとし、大量低價の材料を使用する工業にありては其生産地又は輸入地に近き

都市又は其の近郊を以て最も利ありとすといふことを得べし。果して然りとせば全體として都市又は生産販賣に就て有利なる條件を提供するものと云ふことを得べし。唯多數の都市の中何れの都市が最も有利なる條件を提供するやは當該産業の種類と生産要素の分布状態との如何によりて定まるべきのみ。

\* \* \*

右の所論によつて見れば、交通線路上交通の一時的中斷ある箇所には商業的都市の發生を見るべく、而して既に發生したる商業的都市に交通其の他の便宜の備はれる以上は、工業も之に集り來るの傾向あるものなり。これクルーレー氏が交通の中斷箇所は商業の中心となり、商業の中心は又工業の中心となり、政治の中心となり、美術の中心となり、遂に一國又は、一地方の文化の中心となると云ひし所以なり。

四 交通機關發達の影響

商業の點より見たる都市の位置が既定の交通

關係によりて定まるは勿論、工業の都市に集まるも亦主として既定の交通關係より來るものなることは前項に述べたる所よりして明なり。故に一度既定の交通關係にして變動を來さむか、商業も工業も、從て又都市そのものも、爲に多大の影響を受けざるべからざること言を俟たざるなり。近く都市に重大なる影響を與へたる交通上の變動は實に鐵道の發生發達なり。

鐵道發達するときは一方向より見れば(一)交通線路に變動を來し(二)交通中斷の箇所を變動を及ぼす。即ち新殖民地開拓の如き場合を除き、舊開國にては鐵道を敷設するに當ては重要な既存都市を連絡するに力むるを以て重要都市相互間に就て見れば交通線路に變動を來さざれども、位置又は地勢の關係によりて必ずしも然るを得ざる場合あり、特に中間の小都市に至ては往々にして此の新交通線路外に遠ざかること頗る多し。又鐵道の開通は長距離運送又は晝夜兼行の旅行を可能ならしむるを以て、從來の不完

全なる交通機關によれば、當然交通中斷の箇所たるべき地點も今や然らざるに至らしむ。此の兩様の事情よりして或る都市は從來享受し來れる營利の機會を奪はれ、又或る都市は從來より一層多大の營利の機會を生ずるの結果を來し斯くして都市殊に商業的都市の盛衰を齎らす。更に又他方より見れば、鐵道の發達は大量輸送を可能ならしめ、運賃の低落、運送の迅速、正確・安全を來したるがために、多量の貨物を輸送する工業者の如きは多大の便益を受け、生産費の項目の割合に多大の變動を來すべく、而して此の變動の甚しき場合には、例へば從來運賃高く運送の遅緩危険なりしがために他の利益を捨て敢て原料生産地に位置を定めたりし工業の如きは今や同地に止まり居るの必要なのみならず寧ろ他に轉ずるを利ありとなし、遂に他に轉ずるに至る。斯くして或る都市は工業を其の土地に引き付けたる原因を失ひて他の都市をして之を有せしむることとなり、以て都市工業の

盛衰を來す。一定の地點より遠距離地點までの運賃をば同一線路上の近距離地點までの運賃よりも低廉ならしむる所の彼の特別賃率の如きは斯る理由よりして特定地點の獨立産業獎勵の効果を贏ち得べきなり。

交通機關は一方に於て經濟社會の要求によりて發生發達するものなると同時に、他方に於て其の發生發達は又經濟社會の發達を喚起するものなりと雖も、それは必ずしも特定の都市の繁榮を來すものにはあらず、唯そが該都市をして商業又は工業を引き付くるの原因を失はしめざるのみならず進んで之を助長する場合に於てのみ該都市の發達を齎らし得べきのみ。一線の鐵道なくとも繁榮すべき都市もあり、二線の鐵道の交又するあるにも拘らず、何等特殊の發達を來さざる都市もあり、鐵道發達のために却て衰頹する都さへ其の例に乏しからず、前者の鐵道なくして榮え後者の鐵道ありて榮えざる所以のものは、一は交通中斷の地點たるに反し他は中斷の

地點たらざるにこれ因る。都市繁榮の一策として鐵道敷設を叫ぶ者の如きは大に學ばざるべからざるなり。

【本篇は G.H. Cooley (The Theory of Transportation) A.W. Weber (The Growth of Cities in the Nineteenth Century) K. Hissert (Die Städte) の三氏に負ふ所大なり。】  
 (三二七)

### 金融會社の先驅及其

#### 類例(一)

#### 船尾榮太郎

本篇はリーフマン氏の名著 *Beteiligungs- und Finanzierungs-gesellschaften* 第七章第一節 *Vorläufer und Verwandte der Finanzierungs-gesellschaften* を譯出せるものなり。

- 一 初期發行銀行の概観
- 二 獨逸の發行銀行
- 三 佛國の「バンク、ド、クレヂ」及「バンク、ダツフェール」
- 四 英國の金融會社
- 五 米國の信託會社

#### 一 初期發行銀行の概観

現今に於ける金融會社の先驅として、屢々論題によるものは、千七百十六年巴里に於て資本六百萬「リブール」を以てジョン、ロー氏の設立したる「バンク、ゼネラル」なりとす。こは當初單に純然たる私立發券銀行たるに過ぎざりしも開業後二年米國ルイジヤナに於ける、商業獨占